



この夏は異常なほどの暑さでした。桑名市も「全国一」の気温を記録し、8月には高齢者の方が熱中症とみられる症状で亡くなりました。今までの暑さ対策の常識が通用しなくなってきています。暦では秋とはいえ、まだしばらくは暑い日が続きます。十分な水分補給と休養を心がけていただきたいと思います。さて、6月議会において一般質問をいたしましたので、報告させていただきます。

一般質問の概要

1. 子ども虐待防止について

質問

「予防」は、「虐待を未然に防ぐ」ばかりでなく、「虐待を重症化させない」とても有効な防止策だと言われている。虐待を予防するには、育児不安を抱えているお母さんたちを孤立させないこと…つまり、早期発見・早期支援のネットワークが必要だと考えられるが、桑名市ではどのような予防対策・システム作りをしているか。

山本副市長

予防は究極の虐待対応だと考えている。桑名市では「要保護児童及びDV対策地域協議会」を設置し、教育機関、警察、県の機関、医療機関等の関連機関はもとより、子育て支援の市民団体にも加わっていただき、連携、協力体制をとっている。また、「0～4ヶ月赤ちゃん訪問」「電話相談」「保健教室」「乳幼児健診」等の取り組みの中から、育児不安等が心配され、継続的に関わる必要がある場合は、子ども総合相談センター等の関係機関と連携を図りながら取り組んでいる。



倉田の思い

連日のように虐待報道を目にします。4月には、同じ北勢管内の鈴鹿市で重篤な虐待事件が発生しました。死亡には至らなかったものの、子どもの心と体に深い傷を作ってしまった。このような事件はなぜ起きるのでしょうか。虐待をする親も、多くは「しつけ」が目的だったと聞きます。「しつけ」から「体罰」に、そして「虐待」へと進展していった…。その裏には、「孤独な育児」「社会からの孤立」が潜んでいるといわれています。一人で悩まない、抱え込まない、そして子育てを楽しんでいるようになるためには、やはり周りのサポートが必要です。桑名市では、30ほどの子育てサークルや、民間の子育て支援団体等が、苦しい運営の中、頑張ってくれています。このような草の根的な活動こそ、ある意味重要な「予防」政策です。そして、山本副市長の答弁にもあるように「予防は究極の虐待対応」です。桑名が「安心して子育てができる町」になるためにも、予防分野を担ってくださっている子育てサークル、支援団体が疲弊しないよう、サポート体制作りにはしっかり取り組んでいきたいと思えます。

2. 小学校教育について

質問

H23年度、小学校において新学習指導要領が完全実施される。そこで…

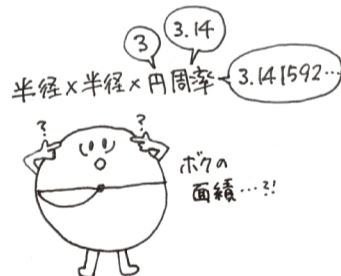
- ①いわゆる「ゆとり教育からの脱却」といわれ、大幅に変わると聞か、教育委員会および現場の準備はどこまで進んでいるか。
- ②東京都などが、H23年度より土曜授業を実施するとの報道があったが、桑名市は土曜日の授業実施についてどのように考えているか。
- ③「ゆとり教育」世代の子どもたちの学力低下が心配されているが、どのようにフォローしていくか。

近藤教育部長

- ①「移行措置期間」のH21・22年度は、文部科学省が明示した移行措置の指導に従い、ハード、ソフト両面遺漏のないように準備している。また、H20年度から3か年に渡り、すべての教員に、県教育委員会主催の「新学習指導要領実施説明会」への参加を義務付け、移行措置および新しい学習指導要領の趣旨、内容の周知徹底を図っている。
- ②学習指導要領改訂という節目の時期でもあるので、新しい教科書を十分研究し、充実した中身の濃い授業づくりを進め、新しい教科課程の構築に全力を注ぐことが緊急の課題であると認識しているので、現段階では、土曜授業については予定していない。
- ③「チャレンジタイム」などの特設の時間を設けて計算力の向上に取り組む学校や、小中学校で連携し、系統性の高い算数・数学の指導法の統一や情報交換などで成果を上げている中学校ブロックもある。今後も「もうひと工夫」の気持ちを大切に、子どもたちに寄り添いながら、きめ細やかな教育を推進するよう指導していく。

倉田の思い

「ゆとり教育」は、子どもの「生きる力」を育むすばらしい教育のはずでした。しかし、子どもたちの「学力低下」が問題視され、今回の学習指導要領改訂に至りました。大きな方向転換です。期待を持って見守りたいと思う反面、心配な点もあります。まず「来年度スムーズに実施できるのか」という心配。外国語活動導入で、外国語を教える教育を受けていない先生方は、本当に生きた授業ができるのか。理科の実験が増えるにあたり、準備はできているのか。現行でも授業が100%終わっていない科目がある中で、授業時間が若干増えたとしても、週5日ではたして教科書をすべて終わらせることができるのか。などなど…。そして「ゆとり教育世代の子どもたちを今後どうフォローしていくか」も心配です。以前「円周率3騒動」というものがありました。マスコミ等に踊らされて、私たちも過剰反応した嫌いはありますが、それでも子どもたちが円周率を「3」で計算し、桁数の大きな問題には電卓を使用していたことは紛れもない事実です。また「教科書が薄い」先生方の力量によって授業内容に差が生じる」という懸念も拭いきれません。どの子にも「確かな学力」を保証するための、教育部長が言うところの「もうひと工夫」が今後ますます必要になってくると思えます。



【円周率3騒動】某テレビ局のワイドショーが発端で「小学校の新しい教科過程では、円周率を『3』として教えるそうだ」という話が広まり、ひと騒動になった。正確には「大まかに数を捉える場合には『3.14』のかわりに『3』を使用してもよい」という指導。

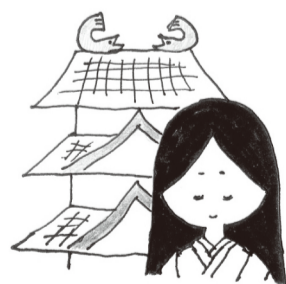
3. その他の質問

【公民館にお年寄り、子どもに配慮したトイレを！】

これは、高齢者の方からの要望を受けて質問させていただきました。公民館には、おおむね一箇所の洋式トイレが設置されています。しかし、多目的トイレのみであったり、女性トイレにのみ設置されていたり、2階だったり、使い勝手がいいわけではありません。足腰の弱ったお年寄り、障害のある方、怪我をしている方、妊婦さん、生まれてから洋式トイレしか知らない子どもたちには、やはり洋式トイレが必要です。さまざまな講座が設けられ、公民館は我々市民の生涯学習になくてはならない存在です。その公民館にはぜひ、安心して利用できる、きめ細やかな配慮を訴えていきたいと思えます。

【フィルムコミッション事業について】

桑名市は、川、海、山に囲まれた、大変自然環境に恵まれた都市です。また、「六華苑」や「多度大社」、東海道唯一の海路「七里の渡し」跡、大規模アミューズメント施設「長島温泉」など、特色を持った景観、建物や施設を擁した都市でもあります。フィルムコミッションは、映画、テレビ、CMなどのロケ地を誘致することで、こうした資源を活かし「桑名」の知名度をアップし、観光客の誘客など、地元の活性化を図るものです。自然環境や建造物とともに「歴史」も観光資源のひとつだと思います。桑名は、古くは「日本書紀」に登場し、室町時代には貿易都市として、また、幕末は佐幕派として、会津藩とともに歴史の表舞台に登場します。そして「御台所祭り」でおなじみの千姫。桑名での居住はわずかですが、「桑名への御輿入れ」は、彼女の激動の生涯の1ページにしっかり刻まれているはず。来年のNHK大河ドラマは「江～姫たちの戦国～」。千姫の生母「江（ごう）」が主人公です。そして脚本は「篤姫ブーム」を作った田淵久美子さんが担当されます。「篤姫」のときのように、時代・政略に翻弄されながらも自分をしっかりもち、たくましく生きていく姫たちを、きめ細かに描いてくださると思えます。千姫も、まさに運命に翻弄された姫です。アピールのしかたによっては「千姫の再出発」として桑名への輿入れの様子を盛り込んでいただく…ということも可能ではないかと思えます。フィルムコミッション事業の初仕事に提案させていただきました。



市議会議員にさせていただいて1年9ヶ月、ようやく地に足を着けて活動できるようになってきたような気がします。昨年3月議会からは毎回一般質問に立ち、私の目指す桑名市に向けて、ほんの少しずつですが歩み続けています。民生児童委員として、小学校の心の相談員として、また市民活動で長年培った経験を活かし、今後も市民の立場に立った議員活動をしてまいります。お気づきの点、さまざまなご意見がありましたら、なんなりとお申し付けください。連絡をお待ちしています。